

## 令和7年度第2回四日市市総合教育会議

令和7年11月4日

10時00分 開会

### 1 開会

**○川口政策推進部長** それでは、皆さまおそろいでございますので、始めさせていただきたいと思います。

本日は、令和7年度第2回の四日市市総合教育会議ということで、皆さま、どうぞよろしくをお願いいたします。

本日、司会を務めさせていただきます、政策推進部長の川口でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。

本日の議題は、事項書でございますように、四日市市教育大綱の改訂案について、そして、令和7年度全国学力・学習状況調査結果を受けた対応ということで、この2つの議題についてお願いしたいと思っております。全体で11時半ぐらいをめどにということで考えてございますので、よろしくお願いいたします。

なお、本会議は公開で行うということになってございますので、傍聴の方やメディアの方が入るということもございますので、その点ご了承いただきたいと思いますと考えてございます。

それでは事項書に従いまして進めてまいりたいと思います。

### 2 四日市市教育大綱改訂案について

**○川口政策推進部長** まず、事項書の2、四日市市教育大綱改訂案についてでございます。

7月の第1回会議におきましては、教育大綱の改訂に向けまして、委員の皆さまから大変多くのご意見やご提案をいただいたところでございます。

皆さまのご意見を踏まえまして、市長部局と教育委員会で協議を行いながら、今回ご提示させていただいております改訂案を作成したところでございます。

本日は、この案についてご意見をいただければと考えてございます。

それでは、まず、事務局から資料の説明をお願いしたいと思います。

事務局、よろしくお願いいたします。

**○矢澤政策推進課長** おはようございます。政策推進課の矢澤と申します。

お手元の「教育大綱（案）」、こちらについてご説明をさせていただきます。

めくっていただきまして、3ページからになります。

前回の総合教育会議で、これまで学齢期に特化した大綱であったので、社会教育であったり生涯教育、また、まちづくりと連動した教育といった視点を取り入れてはといった形でご意見を頂戴したところでございます。

まず、3ページの2のところ、こちら、教育大綱の位置付けについては、あくまで市の総合計画のもとで、本市の目指す教育に関する理念と方針を定めたのが大綱であるということと、対象期間が5年といったところでございます。

この下に、国の教育振興計画も踏まえて取り組んでいくといったような相関図を記しております。

3番から、四日市市が目指す教育というところで、①、②で教育に関する大きな背景といったところを整理しております。社会経済情勢の変化であったり、教育を取り巻く環境がより多様化・複雑化している昨今といったところでございます。

②において、そういった予測の困難な時代においては、自ら問いを立て、その解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出すことができる教育が求められておるといった形で整理しております。

③、④で市の取組状況について、市の総合計画、2020年度から2029年度を期間としていますが、この中で「子育て・教育安心都市」、こちらの実現に向け、「夢と志を持ったよっかいちのこどもの育成」に取り組んでいるところでございます。そういった中、昨年度の総合計画の中間見直しにおきまして「こどもまんなか社会」の実現に向け、新たな取組を位置付けたところでございます。

4ページから、⑤、⑥で、今までの教育大綱から今回改訂する考え方を整理させていただいております。

今回改訂します四日市市教育大綱は、先ほどの総合計画の中間見直しを踏まえまして、学齢期にとどまらず、人生の各ステージにおいて成長を促す「自ら学び、夢と志を持ち、未来を創る教育」、こちらを本市が目指す教育の基本理念としてまとめまして位置付けることといたしました。

⑥でありますように、この理念を実現するために、学齢期中心の前回の教育大綱を体系的に再構築いたしまして、人生の各ステージに対応し、主に教育の環境整備、学齢期の教育、生涯学習と、こういった3つの方針として整理したところでございます。

1つ目の方針といたしましては、誰一人取り残されない教育に取り組みまして、2つ目の

方針では、児童・生徒が自ら学び、多様な人と協働しながら、「生きる力」「共に生きる力」を身につける教育を実現していきます。最後の３つ目の方針では、本市で学び育ったこどもたちがこのふるさと四日市に誇りと愛着を持ちながら成長し、大人になっても地域・社会の担い手として活躍できるよう、四日市市ならではの地域・社会とつながり、学び続けられる教育を展開していきたいと、こういった３つの方針を掲げております。

下の図が、基本理念と３つの方針というのを、図示させていただいております。

５ページから、具体的にこの四日市の目指す教育に関する３つの方針の説明に移らせていただきます。

方針１、多様性を尊重する誰一人取り残されない教育というところで、①では、一人ひとりがもつ可能性を最大限に伸ばし、ともに学び育つことができるインクルーシブ教育を進めるといったところと、共生社会を築いていくことの重要性を記しております。

②で、そのために、個別のニーズを捉え、個別最適な教育、きめ細かな支援、多様な学び場を充実させていきます。

また、それ以外にも、様々な専門人材であったり関係機関等との連携・協働体制の拡充をはかり、地域・社会全体で、こどもたちに切れ目のない重層的な支援、こちらによる安全・安心な環境の提供、多様な居場所の創出、こちらに取り組んでいきたいというところです。

続いて、方針２、自らの人生を拓き、生き抜く力を持つことができる教育というところで、これからの社会、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」、こういったことを基盤に、自ら学び、他者と協働することを通じまして、未来を創造する力、こちらを身につけていくことの重要性を記載しております。

②から、教育を通じまして「自分を見つめる力」「他者とつながる力」「自分を高めていける力」、こういったものを非認知能力としてバランスよく育成します。あわせて、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実もしてまいります。

③では、具体的な取組として、一人ひとりの好きを育み、得意を伸ばしながら、自ら学ぶ意欲、好奇心を高めていきたいというところです。

そして、それ以外にも、デジタル学習基盤であったり、言語能力、情報活用能力といったものを活用いたしまして、自分にとって最適な学習、探究のプロセスを選択・決定し、実現していく力、こういったものを育成していきたいと考えております。

６ページでございます。

また、それ以外に、運動、文化芸術、こういったものから豊かな心身をあわせて育成して

いきたいというところでございます。

最後の方針3、地域・社会とつながり、学び続けられる教育でございます。

①、②で、四日市の特徴をまずご案内しております。

四日市ですが、日本のモノづくりを支えるという部分と、東西交通の要衝として人やモノの交流を生み出してきているまちでございます。それ以外にも、数多くの文化財であったり伝統芸能なども継承されてきた歴史あるまちでございます。

②でありますように、公害対策のモデル都市というところで、これを踏まえて産業発展も遂げてきたといったところでございます。

こうした歴史・文化・自然を活用した教育であったり、社会経済を支える産業、企業等との連携による本市ならではの教育、こういったものを充実させていきたいというところで

す。

また、人権尊重の意識を高め、差別をなくす行動に結びつく啓発・教育、こういったものの充実も引き続き図ってまいります。

そして、身近な課題を現代社会であったり地球規模の課題と関連付け、主体的に解決しようとする行動を起こしていく力を身につけることで、地域・社会の持続的な発展の担い手として育成してまいりたいというところです。

⑥ですが、本市では、現在、新図書館整備、JR 四日市駅前への大学設置といった中心市街地の再開発プロジェクトを進めております。こういったことにより、多様な人々が行き交い、出会い、新しい価値を創造し続けられるまちづくりを進めているところでございます。

最後になりますが、ライフステージのマルチ化、こういったものが進む中で、いつでも学び続け、成長できるように、生涯学習、多世代交流、学び直しなどの視点を取り入れた教育の環境整備、こういったものを推進していきますというところで締めくくらせていただいております。

私のほうからは以上ですが、教育委員会事務局から補足があればお願いします。

以上です。

**〇川口政策推進部長** ありがとうございます。

教育委員会事務局から何か、補足等ございますか。

(補足なし)

大丈夫ですね。ありがとうございます。

それでは、事務局からの説明は以上でございます。

改めまして、資料をご確認いただいたということでございますので、委員の皆さまからご意見等ございましたら、いただきたいと思いますのですが、いかがでございましょうか。

前回同様、伊藤委員からお願いできますでしょうか。

○伊藤教育委員 失礼します。

前回の私たちのお話しさせてもらったことを受けて、いろいろ工夫していただいたというのはよく分かります。

特に、私のほうからも、この案に持っていく、特に3つの方針ですね、持っていくその経緯というか、大きな流れというものがもうちょっと分かったらというようなこととか、地域とのつながりというような話をした覚えがあるんですけども、そのあたりを意識して入れていただいたなと思っております。

ただ、意見というより、感想めいたことも多いんですけども、この最初の3つの方針にいく過程のこと、このあたりの改訂の趣旨にもなったり意図になったりということだと思うんですけども、確かに、この世の動きとか技術革新の進展とか、こういうのを受けて、もう一つ、総合計画の中間見直し。こどもまんなか社会の実現という、こういうことに向けた取組を位置付けてということで改訂されたというのは、これは、全くそのとおりだし、大事なことだと思いますし、再構築して、特に本市が目指す教育の基本理念とその力点といいますか、力を注ぎたいことについて整理されようとしているのは伝わってきますし、いいなと思っています。

ただ、ちょっと、自分の読む力の問題もあると思うんですが、すっきりしにくいのが、人生の各ステージに対応してという言葉が使われていたと思うんですけども、現行の大綱が学齢期にどちらかというと特化している、いわゆる学校教育に特化した大綱になっています。それを、主に教育の環境整備と学齢期の教育、生涯教育に関する、3つの方針として整備したというふうに言われているんですけども、この各ステージというのをどういうことなんやろうかと。

ぱっと思うのは、例えば、乳幼児期、学齢期といいますか学童期というんですかね、それと青年期という、こういう成長に伴うステージというふうなことが、まず、自分なんかはイメージするんですね。そうしたときに、そのそれぞれに対応して教育を進める方針ということで整理を考えたときに、1つ目の、多様性を尊重して、誰一人取り残さないよという、このことを進めるというのは、どのステージでも当てはまってくるかなと思いますし、2番は、どちらかという、今の大綱のかなりの部分を集約したという形で、生きる力、共に生きる

力を身につける教育をというところ。どちらかというと、そこにステージが絞られてくる。  
3つ目は、また地域とのつながりですので、これはそれこそ乳幼児期からいわゆるこどもの居場所づくりも含めていろいろなことを考えると、青年期も含めてという形になります。そういうふうには、この3つの方針に示されることが、縦軸というのか、ステージの軸とそれを貫くものという形で見ていくのと、ちょっとバランスが取りにくいような感じを受けるところがあつて。

そのあたりは、特にステージでいう生涯学習なんていうのは非常に大きな言葉で、学校教育から社会教育まで、ボランティアの面とかスポーツや、いろいろなかかわってきますので、それも全部含めたものをイメージして、ここへ方針として挙げていくとなると、とても言い切れないところがあるので、このあたりの言葉とかも、もうちょっと当てはまるような。3つの方針とどっちかというと逆行になるかもしれません。3つの方針に当てはまるような言葉として必要な、整理したほうがいいのかなという、ちょっと印象がありました。

縦軸横軸みたいなことを言いましたけれども、そういうふうな厳密なものではないのかも分からないけれどもということで、いずれにしても、この1・2・3の教育を充実させるということが、本市がこの大綱を上げて進めていくという、そういう主張っていいですかね、表明でもあるので、そういうふうな視点で伝わればいいのかということ。ちょっと市民の方にそのあたりが分かりにくいような気がしました。

それと2つ目に、3つの方針で言う1つ目の、多様性を尊重する、誰一人取り残されない教育というところで、インクルーシブ教育というのが使われています。これ、本来、いわゆる国連が言うインクルーシブ教育というのは、ここにまさしく挙げられているように、年齢とか性別とか障害のあるなし、それから文化的・言語的な背景、家庭環境、こういったものにかかわらず、いろんな多様性、多様な子どもたちがいて、そのニーズに合わせて教育を提供していくという、そういう考え方で、共に育っていくということもこのインクルーシブ教育というのはうたっていると思います。この理念で進めるということは非常に大事なことで、今後、このことは恐らくこれからの例えば学習指導要領の中でも強く言われてくることだろうと思います。それにも合っていると思います。

ただ、文科省は、今までインクルーシブ教育を障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みみたいなことを以前から言っておりまして、どちらかというと、障害というところでこのことを言っているんです。国連のほうはそうではない。さっき言った本来のことで、教育というのは一定だと思うんです。そういう意味で、このあたりはちゃんと、ここに書かれて

いることをそのまま受け取ればそれでいいんですけれども、ちょっと世間の捉え方が、どちらかというと、障害というもののの中での捉え方が若干あるので、そこは心してやっていかなあかんなど。

ただ、それぞれのそういう多様性に対応していこうとしたときに、1つは、環境整備と、それを進める指導者であったり関係者の力量アップというのはどうしても必要になってきて。今のインクルーシブ教育を進めるための課題として、この2つがよく挙げられると思うんです。それを市を挙げてやっていくということで、進めるぞという意欲といいますかね、それを表明しているようなことと自分は受け止めるんですね。

ですので、結構大きなことなんで、ぜひ進めたいことであるけれども、本当に計画的に、段階的に、何をどう進めるかということ、大綱には書かなくても、例えばビジョンであったり、そんなところで整理してやっていかないと、これはなかなか進みにくいものがあるんじゃないかなということでした。

それと3つ目は、2番のことは今の大綱に書かれることを集約して書いていただいた5つあるうちの4つですね。方針3は、どちらかというと今の大綱の最後のところ、四日市ならではのところにつながると思うんです。

ここで感じましたのは、四日市ならでのということで、四日市の地域資源、教育資源ということ、これをぜひ活用して進めたいということは全くそのとおりで、方針の①から③に書かれたことはぜひ引き続いてやっていきたいという思いで私もおります。

その中でも、⑤に挙げられたことですね。身近な課題を社会や地球規模の課題と関連付けて進めていくという、このことは、私非常に大事だと思うんです。ならではのことを学習していくのも一つ、これは大きなことですが、こどもが生活の範囲、地域であるかそんな中で、人であるとか、そこで行われていることであるとか、人・モノ・コトとよく言うんですけれども、こういうことと具体的にかかわることで出会うこと、また交わることでこどもが地域を意識して、そしてそれが四日市全体になったり、それが市や県になったり国になったり、そういう同心円上に広がって、愛着も生むということになっていくということで考えると、幼児期から学齢期、小中学校あたりの地域のかかわりというのは非常に重要であると思います。

それを進めていく仕組みでいうと、自分はやっぱりコミュニティスクール。小中学校で行われるコミュニティスクールはその辺の要となる取組であろうと思っているんです。

ただ、要となる取組ではあるんだけど、学校によって、やはりいろいろ地域によって

その特性もあったり、若干差もあったりします。それをやはりレベルアップしていきたい、ボトムアップしていきたいという思いがあって、そういう意味では、地域のことを本当に子どもたちが愛着を持っていけるためには、コミュニティスクールが活性化されるようなやはりシステムを、今もいろいろしてもらってはいるんですけども、ぜひ市を挙げて。例えば人材育成とか確保とか、それにつながるような取組をてこ入れをしていかないと、なかなか厳しい状況もあるようなことを聞いてもおりますので、ぜひそういったことを。先ほども言いましたように、大綱にそれをどう書き込むかというのは難しいか分からないですけども、やはりそれを進める上でこれは意識していきたいなということで、自分は、この表をそんなふうな捉え方で進めていきたいなと。

いわばコミュニティづくりの機能面とか運営面の充実がされるような戦略というんですか、戦略を持たないとなという。これは教育委員会だけでは厳しいところがありますので、市を挙げて何とか。これ、以前から自分も何回か申し上げているところで、進めていただきたいなと思ったところです。

そんな、感想めいたようなことを申し上げましたけれども、感じました。

**○川口政策推進部長** ありがとうございます。

伊藤委員から何点か、ご指摘やご意見をいただきました。

前回の大会から今回こういった形で、大きく3点というような方向性の形に再編するという形で仕上げ直したといえますか、大きな方向性をまず大会では出させていただいて、その下に続く、学校教育ビジョンを含めて、細かな施策として落とし込んでいくというような形での体系で考えてきたところでございます。

伊藤委員からおっしゃっていただいたような部分につきましては、今後、施策をビジョン等に落とし込んでいくというような作業が必要になってくると感じているところでございます。

ただ、最初におっしゃっていただいた縦軸や横軸という部分で分かりにくい部分もあるんじゃないかというようなところでございましたので、そのあたりは、引き続き検討させていただこうと考えているところでございます。

全体としては、最後、教育長や市長からご発言があると思いますので、引き続いて、豊田委員にお願いしてよろしいですか。

**○豊田教育委員** 全体の印象としては、すごくすっきりして、読みやすくなったと思います。こういうことをしていくんだなというのが分かりやすくなったかなというのが第一印象で、



本当にすっきりしたなという感じを持っています。

何をするかといったときに、自ら学び、夢と志を持ち、未来を創る教育というふうなところが大きく出ているので、これに向かっていけばいいなというところで、今後の5年間に関してはこの3つの方針というところで力点を置いていきますというのが伝わってくるので、非常に読みやすいというのが、くどいですが、あります。

5ページ、6ページのところで方針の説明がされている中で、若干ですが、例えば方針1のところの③の言葉になると、大綱の中にかなり具体的に、こういう場所をつくりますとかいうふうにして、大綱の中でもここまで言い切るかなみたいな。もう少し大きい位置付けのものであるとちょっとどうなのかなと。

ほかの言葉の、方針の中を説明していくところで、例えば、同じ②のところに、多様な学びの場を充実させますよとかいう部分に、ひょっとしたら多様な居場所のところも入っていくかも分からないですし、ほかの連携を含めてつくっていくんですよというのが、この②と③の文章のつくりが、ちょっと重なる部分があるのかなというのと、もう少し③を抽象度を上げてもいいのかなというような気は、方針の中なので思いました。

あと、方針3のところは、今回入れていただいた非常に面白いというか、入れていただきたいというふうにしたところなんですけど、これって、ごめんなさい、それこそ国語力の問題なのかも分からないですけども、こどもたちの教育を言っているのかなみたいな。

ずっと前段、①から⑥のところの説明は、こういう教育をつくっていきますよというふうなところで説明があり、⑦になると、ライフステージのマルチ化をする中で自分らしく学び続けというところが、こどもたちが学んでいくというのを、方針1・2はこどもたちの教育中心に書いてあって、3は地域社会と、社会に出てからも学び続けて創造する、四日市をつくっていけるようにというところの教育としたときに、⑥まではどうしてもこどもたちの学校教育であり、社会教育という言葉はありますけれども、こどもたちの教育のニュアンスが強いのかなって思います。背景は、四日市の特徴は別としてなんですけれども、⑦に突然、いつまでもというのが、ちょっと違和感がここもありまして。

ここ、概念図のところで見ていくと、やっぱり四日市ならではの社会とつながって。これって、四日市に住む人たちをある意味包含するのかなというふうにも読めるところが、ちょっとあいまいな表現に落ちているような気が。読み方の問題なのかも分からないですけども、ちょっとそういう印象を受けました。

これから何をやっていくというのがとても楽しみになるようなつくりだとは思いますが、す

ごく期待を持ってこの5年間を見ていけるのかなというふうには思いました。

ありがとうございました。

**○川口政策推進部長** ありがとうございました。

豊田委員がおっしゃっていただいたように、方針1は大きなといいますか、土台といいますか、多様性を尊重する、誰一人取り残されないというような部分で、四日市の教育の土台の部分を表しているのかなという中で、2のほうは、伊藤委員もおっしゃっていただきましたけれども、学齢期の部分を中心という部分、そして、3の部分で地域社会や生涯学習という部分に今回触れていきますという章立てで作らせていただいたというところでございます。

豊田委員に確認ですが、方針3の⑥から⑦の部分について、学齢期の部分と生涯学習という部分の流れがもう少しはっきりと記載した方が良いというご指摘でよかったですでしょうか。

**○豊田教育委員** もう少し滑らかに。

**○川口政策推進部長** いけば良いのではないかなというようにご指摘ということで、そのあたりも検討させていただくようにします。

ありがとうございます。

引き続き、菅生委員、お願いします。

**○菅生教育委員** ありがとうございます。

多分、これを考えるのとても大変だったところを、すごく私たちの意見を聞き入れていただいたなというところがあります。ありがとうございました。

その上で、とてもいいなと思いつつ、でも、せっかくのこういう場なので、少し感想と、それから少しご質問をさせていただきながら、考えていただきたいなと思うところと今後についてということでお話をさせていただけたらと思います。

まず1つ、こどもまんなか社会の実現ということで、私、これすごくいいなと思っているんですね。

こどもまんなか社会と言ったときに、多分、一般的には今のこどもたちというイメージで捉えていらっしゃる市民の方々が多いいんじゃないかなという気がするんです。

私の中では、今のこどもたちというのももちろんそうなんですけれども、この先、こどもたちが大きくなったときの四日市もやっぱり、今のこどもたちが成長していくわけなので、今のこどもたちが大人になったときの四日市全体にとってもこどもまんなか社会になっていくだろう。要するに、文化が継承されていくというところがあるのかなというふうにも思

います。

それから、この先永続的にという意味でいっても、そういった子どもたちが常に成長していき、そしてこの四日市で生涯を送っていただくという形になったとすると、子どもたちがかなり安心で安全で、豊かな心身を育まれるような四日市になっていくんだなというのをすごく想像ができるんです。そういう意味で、こどもまんなか社会という言葉自体が、ものすごく大きな意味でとてもすばらしいなとも思っています。

そういったことを考えていくと、じゃあこの教育大綱をどういう位置付けにしたらいいのかと思うと、多分、市役所が先導してもちろんやるべきところはたくさんあるかなと思いますが、市民の方々にもどうやってそこに向かって、私たちもそのためにこどもまんなか社会を実現していなきやいけないとか。図書館もそうですし、学校教育もそうですし、いろんな観点から市民の方々を、どういう言い方をしたらいいかわかりませんが、巻き込むとかね、ご協力いただくとか、みんなで一緒になってこの四日市をつくっていくというような、そういう風土をどうやったらつくれるんだろうかというふうに思っています。

という前提で教育大綱と言ったときに、教育って全ての根幹にあるんじゃないかと思っているんですね。こどもまんなか社会というところもそうですし、この四日市、本当に日本のモノづくりを支えるという意味もあれば、伝統もあるし、特色ある農業とか、本当にいろんな。この資料の中にも書いていただいておりますが、人やモノの交流とか、そういったものを実現しながら四日市の総合計画も実行していこうと思ったときの、全ての根幹にあるのが教育だなと思っているんです。

なので、その教育の重要さとか、こういう教育をしていくと私たちの四日市ってこんなふうに、もっともっとこれからさらに成長していくんじゃないか、もっともっとみんなが安心して安全で豊かな心身が育まれるような、そんなまちになるよねというようなものになるといいなというふうに思っているんです。すごく抽象的な話で申し訳ないんですけど。

と思うと、先ほど委員の方からも話がありましたが、どっちかという市から主導ももちろん大事、リーダーシップを発揮するという意味でも大事ですが、どっちかという、何か宣言的な、こんなことが私たちできますという、そういうトーンが強いような気がしたんです。そこをもう少し、市民の方々も一緒にやっていくというような。

そもそも、この教育大綱の位置付けをそういうふうにしていないのかどうなのか分かり

ませんが、全体を考えてみると、そういう位置付けになっていくと、一人ひとりが取り残されない。私も取り残されないなら、そしてみんなも取り残さずに、みんなで教育していくまことにしていこうかと。そんなものになるための指針になっていくんじゃないかなというのをひしひしと感じながらこれを読ませていただきました。

なので、その部分が少し気になるなというところが一つです。

それから、実際に細かいところでほかの委員の方々もおっしゃっていらっしゃるの、そこは皆さま方に譲るとして、今後、この教育大綱をどうやって実現させていこうかと思ったとき、これ多分、市役所さんと教育委員会でいろいろ連携しながらやっていくというところが大事だと思うんですけども、例えば市役所といっても、本当に大きな組織対組織というよりも、各部署同士とか、それぞれの何とか部と教育委員会の何とか課かもしれないし、本当にいろんな要素がある中で、それらがどうやってうまく連携しながら、機能させながら進めていくかがとっても大きな鍵になるだろうなというのを考えたときに、そこを考えた上でのこの教育大綱にちょっとなっている。要するに、その部分にもちょこっと触れていると、よりこの教育大綱をもとに進めていこうという人たちの意識が集約されるというか、求心力を持った教育大綱になるんじゃないかなという気がいたしております。

以上です。

**○川口政策推進部長** ありがとうございます。

教育は全ての根幹というようなところもありまして、本市が今後5年間どういう教育を目指していくのかという部分の理念を今回つくらせていただいて、その達成に向けて5年間やっていくという中での、今回の取組ということになってまいります。委員がおっしゃっていただいたように、本市がこういうような理念を目指したいというところをお示しするとともに、市役所が旗を振る、教育委員会が旗を振るというだけではなくて、やはり市民の皆さまですとか、企業、地元自治会等も含めて、全体でやっていく必要があるという部分は十分に感じているところです。

このような点も含めて、この3つ目の方針、今回新たにつけ加えさせていただいた部分につきましては、前回の会議で委員の皆さまからいただいたご意見を入れさせていただく中で、このような形になってきたというところでございます。その辺はしっかり意識しながらやっていきたいというように思っておりますし、市の中では常に意識はしているのですが、組織間の連携というところ、これは忘れずに、引き続きやっていきたいと思っておりますので、またご指摘等あれば、よろしくお願いします。

ありがとうございます。

堀委員、お願いします。

**○堀教育委員** 最後で時間があつたのに、全然まとまっていなくて、どういう話をしようかと思ったんですけれども。

私自身が、こどもが幼稚園を3園転園してしまして、3つ行っているんです。そのときに、全国的にどういう表現で言われているかは分からないんですけれども、どこの幼稚園選びをするときでも、伸び伸び系かお勉強系かという、その感じってありますか。ありますよね。私がこどもを通わせたいのは伸び伸び系なんだ、またはお勉強系なんだという感覚で幼稚園だつたりを選んでいたんです。

それでいうと、四日市市の教育は伸び伸び系なのかお勉強系なのかって、保護者は気になる場所だと思って。これを読むと、完全な伸び伸び系だと思います。

それをどう具体的に言葉で表すのか、私はちょっと難しいんですけれども、この大綱を読んだときに、インクルーシブだつたり多様性だつたり、自己肯定感、ウェルビーイング、非認知能力という点がやっぱり伸び伸び系というイメージと重なってくる部分で、それでいうと、お勉強系の部分がちょっと少ないのかなと思って。

確かな学力っていうのが、方針2の①に書かれていて、あと、もちろん認知能力と非認知能力は両輪なので、非認知能力をエンジンにしてと言われますが、育てていく部分、大きな部分だと思うんですけれども、読解力だつたり論理的思考力だつたりという言葉も教育委員会としては大事にしている部分なので、その一面がちょっと割合として少ないような気がしました。なので、読んだときに伸び伸び系だなと思ったのは、多分そういうことかなと思いました。

うまく表現ができなくて申し訳ないですけれども、私からは以上です。

**○川口政策推進部長** ありがとうございます。

伸び伸び系というか、教育の土台の部分としてそういった考え方といいますか、その上にやはり個々の学力をつけていくという部分で、カリキュラムも含めて乗ってくるというようなことになってこようかと思います。大綱としては、そういった大きな土台の部分を書き込んでいる中で、学力の部分が少ないのかなという印象を持っていたというところかと思います。

この次の事項でご説明させていただくところになりますが、学力についても市としては非常に気にしてしまして、一生懸命やるという構えで、この後説明させていただきます。そ

の辺のところは忘れずに、しっかりやっていきますので、またよろしく願いいたします。

それでは、4人の委員の皆さまからいろいろご意見いただいたところでございますので、教育長からお願いできますでしょうか。

**○廣瀬教育長** 今回の大綱については、今お話があったとおり、方針1については、こどもまんなか社会の実現といったテーマでまとめていただき、方針2については、教育委員会が責任を持って学校教育ビジョンで具体についてはしっかり示していく。3つ目については、人生100年時代を生きるマルチステージ社会というところで、生涯学び続ける機会や場の保障を市全体で持っていく。そんなコンセプトでつくっていただいたのかなと思っておりますし、それは大変ありがたいと思っています。

特に、方針1については、こども計画との関連が強いと思っていますし、ここにも、「充実した人生を歩むための基盤を育み、誰もが憧れる『子育て・教育安心都市』の実現」というのが一番に書かれておりますし、「各ライフステージで様々な学びや体験を通じて成長し、若者として社会生活を送る」、こういったワードもありますので、そういったところを総括して示しているところだと思っています。

それには、教育・保育、保健・医療、療育・福祉、市民・シティプロモーションのスポーツ・文化、それぞれ全部かかわっていただいて、そういった場の提供をしっかりと保障していく取組が必要だと思っていますので、教育委員会と市長部局が連携しながら、こどもの成長と生涯学ぶ機会の保障について一緒につくっていけるといいかなと思っています。

そういった示しですけれども、伊藤委員言われたように、市民の皆さんに伝わるかというところが。ご指摘を受けたのは、マルチステージの社会というものについてどれだけ多くの人が理解をされているのかなとか、先ほどもありましたけれども、市民に理解と協力を求めるための発信の1つ目の大きなものになるのかなと思っています。

どちらかというと、リーダーシップを取って実行していくのは私たちですけれども、先ほど菅生委員が宣言文のような形と言われましたけれども、メッセージ性のあるものになるといいかな。そのためには、少し分かりやすい記述に加える。でも、長くなると余計読まないという問題がありますので、市民に伝わりやすいものをどうやってもう一度練っていくのかなというふうに思っています。

先ほどのインクルーシブ教育も、障害のあるなしという概念から今は捉えているところが多いので、教育民生委員会でもよく指摘をいただいております。インクルーシブ教育って、外国人はどうなっているのかと。今、私たちがビジョンで挙げているインクルーシブ教育は、

障害のあるなしにかかわらずというところがテーマになっているので、そのあたりの指摘は今もあるのはあるんです。

そういったところですが、多くの方々にどうやって理解を求めるかというのは、また違う工夫が要るのか。ここにどれだけ理解を求められるような記述ができるのかはちょっと難しいとは思いますが、そういったいただいた課題については整理をしていって、大綱に盛り込むものとこれから策定していく第5次の学校教育ビジョンに盛り込むことを整理しながら示していければいいかなと思っています。

以上です。

**○川口政策推進部長** ありがとうございます。

それでは、委員の皆さまのご意見を受けて、市長から一言お願いします。

**○森市長** 今回の大綱ですけれども、皆さんのご意見をいただいて、学齢期だけであった大綱を、全世代、全年齢に向けた大綱に変えていこうということで、「自ら学び、夢と志を持ち、未来を創る教育」を教育理念として位置付けているところです。委員の皆さんの意見をいろいろ聞いていて、私も3つの方針というのは良いとは思いますが、学齢期プラスアルファで盛り込んでいくというのが今回の目玉ですので、4ページ目の3番目の整理のところで、教育の環境整備、学齢期の教育、生涯学習に関する3つの方針、この区分けが少しわかりにくくなっているのではないかなと感じました。

学齢期については、方針1、方針2、方針3のいずれについても当てはまると思います。学齢期を中心とするのは良いと思いますので、この区分けについて、もう少し考えたほうが良いのではないかと思います。

たとえば、先ほど伊藤委員がおっしゃったコミュニティスクールの議論などは、方針3に入ってくるべきではないかと感じますが、学齢期ということで、方針2に入れているということで、このあたりの考え方について、一回整理してはどうかと思います。

もう一点、方針3については、まちづくりを進めていく中で、大学の設置についても頑張っていこうとしています。今後、いろいろ議会の判断も仰がなければいけないですけども、大学などはリカレント教育、学び直し、この点を出していこうとしているので、こういった切り口でも入れてはどうかと思います。

皆さんのご意見を聞いていて、新しく組み入れた要素も多いところですので、もう一度整理したいと思います。

**○川口政策推進部長**

委員の皆さまからのご意見、その中で、市長や教育長が感じていただいた部分もあるというところでございますので、その辺は、これから最終案をつくらせていただくにあたって、市長部局、教育委員会も含めて相談させていただいた上で進めていきたいと考えてございますので、また引き続き、委員の皆さまもどうぞよろしくお願いいたします。

**○森市長** 1、2、3の方針は良いと思っていて、それは学齢期全部共通だと思うので、2だけにかかわらず、学齢期にしっかりと軸をつくって、学齢期以外をどう記載していくのかというのを整理していく感じで良いのではないかと思います。

**○川口政策推進部長**

その辺の見せ方などを工夫させていただきながら、最終案に向けて考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

他にご意見等がないようであれば、次の項目へ進めさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(意見なし)

**3 令和7年度全国学力・学習調査結果を受けた対応について（報告）**

**○川口政策推進部長** それでは事項書の項目3、令和7年度の全国学力・学習状況調査結果を受けた対応について、事務局から資料の説明をしていただきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

**○坂下教育推進課長** 教育推進課長の坂下です。

「全国学力・学習状況調査結果分析」、かなり分厚い、緑・黄色基調の表紙で皆さんのお手元に届いていると思います。これ、皆さん一度はご覧いただいている資料だと思いますが、簡単に、5分ほどご説明をしたいと思います。

まず、目次をごらんいただきますと、今日はこのうち、1、2、3までご説明いたします。四日市市の児童生徒質問紙調査の結果まで触れていきます。4、5は既に各校に配付しました授業づくりに関する資料となっていますので、本日は1から3の説明にとどめたいと思います。

では、1ページ目にまいります。

過去5年間の各教科の正答率を、全国や三重県と比較しております。

令和7年度の小学校、上の段ですね。これをご覧ください。黄色で令和7年度を示しまし



たが、県と比べて一段低くなっているのが算数です。全国平均と比べますと、正答率でいいますと3ポイント違うと。

単純化して説明しますと、正答率が3ポイント違うということは、四日市のクラスの人数の平均、大体30人弱ですので、30人クラスで3ポイントで違うとクラス全体で90ポイント違うと。つまり、9人の子が10ポイント低かったりというような状況がこういうふうな差になってくるわけです。クラスの3分の1の人数ですので、これは誤差の範囲ではないというふうに考えております。

一方、下の段、中学校をご覧くださいますと、中学校では、数学では全国を上回り、国語と理科はわずかに下回りというような状況でございます。これが概況でございます。

それでは、先ほど小学校の算数について言及しましたので、続きまして、少し飛びますが、4ページ目、4ページの小学校の算数に飛んでご説明したいと思います。

4ページに、棒グラフの上に折れ線グラフを重ねたようなグラフがあります。本市の成績が棒グラフ、全国が折れ線グラフになっています。

本市の棒グラフを見ていただきますと、左のほうに棒グラフが寄っているのが分かります。正答率が低いほうがどの層でも少しずつ多くなっていることが分かります。

次のページで、5ページ目をご覧くださいますと、これは個別の問題、どんな問題で特に正答率が全国と比べて低かったかというのをご紹介しております。

例えば、上の問題は、通分の仕組み自体が分かっていると対応できない。下は、今度は台形はどれですかという問題ですが、これは、1、3、5が正解ではあるんですが、うろ覚えですと、2とか4を選んでしまいます。

本市の児童、もともと計算とか漢字は全国と比べて全然遜色はないんですけれども、台形ってどんな形かということが頭の中にきちっと定着していないと、こういうことになってくる。

理科のほうに飛びますけれども、同様の傾向でして、7ページをご覧ください。

理科でどんな問題に課題が見られたかというところ。これ、いずれも実験で起きている現象についてしっかり理解しているかということが問われておるところ、ここに課題が見られたというふうに指摘をしております。

中学校の各教科は時間の関係で省きますけれども、中学校は明らかに左寄りということはないのですが、課題と見られる問題は、小学校と同様で、やはりいろんな問題についてしっかりと理解しているかどうかというところに課題が見られるということを各ページで

紹介しております。

そうしましたら、学習状況調査のほうに飛びますので、16ページまでお進みください。  
これ、児童生徒に学力調査と同じ時期に質問した結果なんです。

例えば、この16ページですと、真ん中の段で丸で赤く囲んだんですが、つまり、「好き」と答えた子は、各学力層、4つに学力層を分けまして各学力層でどれくらいいるか。やはり、右の色が薄いほう、上位層では「好き」と答える子は多くなると。これ、好きだから勉強するのか、あるいは勉強して分かるから好きなのか、このあたりは相乗効果だと考えますが、やはり心の面ですね。楽しい、好きという気持ち、これは決して無視できないデータだと考えております。

それに関連して、少し飛びます。18ページをご覧ください。

ICTの活用状況、ICTのスキルですが、この真ん中の赤とか青で数字が示されたところ、左が小学校で、右が中学校になります。赤い数字というのが全国より低い結果の数字、青い数字は全国より高い。そうなりますと、やはり左側の小学校は中学校に比べて赤が少し多くなっている。小学校は赤が少し多いとか、中学校は青が多いというような結果になっております。

この青と赤の傾向というのはどこのページでも同じなんですが、例えば、20ページに飛んでご覧いただきますと、ここは、今よく使われているキーワードのウェルビーイングですね。ここでは、中学校、右側の列ですが、中学校は真っ青なんですが、小学校ではやはり赤も多くなっている。

これを各校ごとに少し分析していきますと、例えば、これは6年生のときに答えているんですが、やはりその6年生の例えば前学年、5年生とかで学級が落ち着かなかったりすると、やはりそのクラスとかあるいは学年が10ポイント以上低かったりしますので、そういう意味でいうと、そういうところは影響しているかなというふうには思っております。

つまり、今まで見てきましたように、学習だけではなく、クラスづくりであったり、あるいは環境ですね。こういう影響は少なくないのではと考えております。

この後、また授業の内容だけではなく、改善方策についても言及いたしますが、まずは、この冊子については、以上、調査結果をかいつまんでご説明いたしました。

私のほうからは以上です。

**〇廣瀬教育長** 続きまして、「学びの改革推進プロジェクトチーム」というペーパーがあると思います。これについては、こういったものを発足させた経緯というか、簡単にご説明を

いたします。

今、Society 5.0に向かって産業構造もどんどん変化していくという、そういう社会の変化、経済社会情勢の変化、こういったものもあって、保護者の価値観もどんどん多様化していく。そして、こども自身も多様な個性を持つ、特性を持つこどもさんがたくさん学級の中にもいる。そういった状況にあって、学校の授業のあり方、学びのあり方とか学校そのもののあり方が今問われている、こういう時期に来ています。

今、2030年から実施される学習指導要領の改訂に向けての議論が始まっていて、論点整理、一定の方向性が出されています。これを見ると、本当に授業観とか学習観を転換してあり方を変えていかないといけない、そういう局面を迎えようとしています。それから教員の働き方改革。教員不足で、教員のなり手がいないというところで、給特法という、教員の給与の特別措置法が改正されて、時間外手当じゃないところで、教職調整額を毎年1%ずつ10%まで上げていく。このかわりに、時間外在校時間を月30時間に必ず2030年にはしなければならないという、そういう働き方改革も、法に定められた取組が求められています。こういったところから、2030年度までに学校を大きく変えていかなくてはならない。そういったところがあって、様々な喫緊の課題に対応するために、こういった6つのテーマを設けて改革への取組を進めていこうと思っています。

1つは、「学びの改革」。これについては、学び方の改革もそうなんですけれども、喫緊の課題である、今回、算数がかなり厳しい。100に対して95%しか取れなかったというのは大きな課題であると捉えています。これについて早急に対策を取るものを考えていきたいと思っています。

学力の保障というのは、先ほどの話題の中で、生涯学び続けるというものの基礎になる基礎学力の保障は絶対必要だと思っていますので、ここについては全国水準の学力の保障につなげるような手だてを何とか取りたいと思っています。具体的にはまた、今取り組んでいることについては教育推進課長から報告をさせていただきます。

それから、先ほどのインクルーシブ教育、多様な学びの場による誰一人取り残さない学びの保障。これについては、外国人、不登校、特別支援を含めた大きな考え方で進めていく。それから発展すると、学びの多様化学校であるとか夜間中学ということにも言及しなくてはならないのかなと思っています。

それから、その下の「教職員の健康確保とワーク・ライフ・バランスの実現」と「教育の質の向上」については、業務量管理、それから健康確保措置計画の策定を今年度中にしなく

てはいけないので、第3回のこの総合教育会議でもこの計画について議論いただきたいと思っています。

こういったものを実現するためには、デジタル化というのはどうしても効率化を図るために必要ですので、右側ですけれども、教育のデジタルトランスフォーメーション、こういったところによる質の保障であるとか、働き方の効率化を図る、こんな取組について進めていく。

それから、ウェルビーイングということが今うたわれておりますので、質と社会のウェルビーイングの実現のために、非認知能力、こういったところの育成について、それから、キャリア教育や特別活動の充実についての取組について検討していかなくてはならない。

それから、こどもの居場所づくりによる学びのセーフティーネット。安全安心な学びの場の提供のためにも、地域の力もお借りしてこどもの学びを支える。そういった体制を、コミュニティスクールのアップデートを図りながら進めていきたい。

こういった6つのテーマについて今後取組を進めていきたいと思っています。

チームが発足して動き出しているところもありますけれども、まだまだこれからのところもあります。こういった視点で学びの改革を教育委員会としては進めていきたいと思っています。

先ほど申し上げた喫緊に取り組むべき課題について教育推進課長のほうから説明させていただきます。

お願いします。

**○坂下教育推進課長** 教育推進課坂下です。

引き続き、その次のページにございます第1回学びの改革推進プロジェクト会議という、こういう会議をもう早速やっておりますので、まず、第1回の内容をご紹介しますと思います。

囲みでありますように、課題としましては、令和7年度の全国学調を踏まえた児童生徒の学力向上、これについて会議をしたところですが、第1回のプロジェクト会議のメンバーはこのように、各課の補佐級、グループリーダー級、それから筆頭の指導主事、この辺が絡んで参加しております。

①の現状については、先ほど、私が冊子でご説明をしたとおりなんです、②課題として、このプロジェクト会議から上がってきましたのは、やはり1つ目、これは各管理職等のマネジメントですけれども、この結果分析が学校づくりのビジョンやあるいは研修の計画等々

と結びついて捉えられていない。あるいは2番目、今度は授業のスキルですけれども、こどもたちが主体的に学ぶ授業づくりのイメージがやはり持てていない。これは、どんどん若い教員が入ってきている中で、教員の力をどう育成するかというもの。3番目、今度は環境ですね。学びの土台となる落ち着いた学習環境や、あるいは教師やこどもたち同士の関係づくり。クラスづくりですとか、そういったものにも課題があるんじゃないか。4番目、学力向上に向けた授業づくりだけでなく、それぞれの学校が抱える課題というのもしっかり見ていかないといけない。5番目、研修としていろいろ公開授業などをしているが、それと日常的な授業改善。日々の、毎日の授業改善、これをどうつなげるかという課題。こういうような課題をあぶり出しております。

③対応としましては、指導主事が各校を回ったり、あるいは校長会あるいは各校の研修会などを利用する。そして4つ目ですね、算数の「総括テスト」といいますか、卒業テストといいますか、小学校6年生でここまではやはり学力をつけたいという、そういう算数のテストを今つくっております、これを各校でやって、もう一回6年生の弱点をしっかりとあぶり出して、そしてその学力を確認しながら中学校につなげていきたいと、こういうような取組も行うところでございます。

以上、プロジェクト会議をもとに、今の取組、方向性についてご説明いたしました。

### ○川口政策推進部長

先ほど事務局からご説明をさせていただきました2つの事項、全国学力・学習状況調査結果及び学びの改革推進プロジェクトにつきまして、委員の皆さまからご意見等ございましたら、特にご指名などはいたしませんので、適宜お願いできますでしょうか。

**○菅生教育委員** 学力に関するこういった調査、そして結果の分析をしていただいて、だから今どういう状況になっているのかというのを大枠で確認することができるなどと思って、これ、多分大変だったと思いますけれども、ありがとうございます。

その上で、改めてどこを目指していくのか。全国平均を目指していくのか、それとも、いやいや、こどもまんなか社会を実現していくために今後の四日市を考えたら、ここら辺を目指していこうとか、何かそういった目指しているところがどこなんだろうというのをもう一回聞きたいなと思いながら話を聞かせていただいております。

**○坂下教育推進課長** 教育推進課坂下です。

先ほども、こどもたちの心の中ですね、質問紙の中でご紹介しましたけれども、やはり分かりやすい授業、授業で分かるということはこどもたちの学校生活の充実にもつながりま

すので、まずは分かりやすい授業。そして、それに伴ってしっかりと学力が定着してくると、当然学調の点数も上がってくると思いますので、いかに授業あるいはクラスづくりの充実を図るかというところで、そういう意味で、このプロジェクト会議が、しっかりいいのが出てくると思いますので、学調を上げるじゃなくて、学調は後でしっかり必ずついてくるものと思いますが、やはり分かりやすい、こどもたちも充実して、そんな授業をもっと目指さないといけないんじゃないかなというふうには考えております。

**○菅生教育委員** ありがとうございます。

**○廣瀬教育長** やはり生涯学び続けるという力をつけるためには、一定、学ぶことが楽しいという気持ちにならないといけない。それについては、やはり基礎的な知識、技能がある程度身につけていないと、次の学びに展開していかないと思いますので、その部分はしっかりと保障していくべき。その総和が、数値的には全国学力・学習状況調査の全国水準ということで見取れるのかな。一定の指標にああいった数字が出る限りはなっているので、結果、そこにポジションを取ればいいのかと思っています。

個々には学びのスピードが違うので、一人ずつの出来不出来は、小学校6年生の段階でどこまでできるか、中学校3年生でできるか。高校になって伸びる子、たくさんあると思うので、総和として全国水準の学力は四日市の教育委員会としては保障していきたいと思っています。

根底には、学び続ける気持ちを育てる。そのために必要な基礎学力はきちんと保障するという取組は必要なのかなというふうには思っています。

**○菅生教育委員** というと、全国水準というのが平均点なところなのか。どういうイメージですか。

**○廣瀬教育長** 私はニアリーでいいかなと。

ただ、先ほどグラフにあったとおり、98%とか、別に僕は構わないと思っていたところが、今回95%という、傾斜をぐっと下った。このままではいけないんじゃないか。何かやっばり大きな課題が潜んでいるんじゃないかということで、今、現場とヒアリングをして、改善に向けた取組をしています。

その中には、先ほど課長が報告させてもらったとおり、授業だけの問題じゃなくて、学校というのは今とっても多忙になっている中で、マネジメントの問題も大きな課題が潜んでいると思いますので、そのあたりをクリアにしていって、学校運営そのものを少しスマートというか、シンプルにするじゃなくて、賢く運営できるような形を目指していく必要があ

るのかなとは思っています。

**○川口政策推進部長** ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

**○豊田教育委員** 2点あるんですけど、1点は、改めてこの学力調査の結果を見せていただいたときに、経年の動きを見ると、順調に下がってきている感じが。順調って、そういうときに使う言葉でないのは分かっているんですけども。

ここが、例えばクラス運営だけの問題とか、今教育長が申されたように学校現場が忙しいからというのが四日市に特異的に起こっているとは思えないので。四日市のこどもたちがなぜそうなっているかの分析がもしできるのであれば、やっぱりそこを押さえないと難しいのかな。

その一つのきっかけが、組織横断的に組んでいただいたこのプロジェクトの活動に少し期待をしている部分というか、それも目に見える学力の向上というところではあるけれども、このメンバーの方々は意図的に意見を出し合い、そして現場を見ることで、また違う、それ以外に現場を見ることで分かってくることもあるのかなと思うところではあるので。

1点は、四日市だけがそういう、クラスが何とかという問題ではないので、そこの説明だけでは物足りないというところが1点。

2点目が、そのプロジェクトのところが発足して1か月、2か月弱ぐらいですかね、経ってきているので、この計画では少し進んでいるのかと思うので、そこの実質進んできたところの、どんな感じなのかが教えていただければ。今の状況、このプロジェクトチーム、せっかくつくって動いている部分なので、ちょっと現状を教えてほしいなと思います。

**○川口政策推進部長** 2点ご質問をいただきました。教育長、お答えいただけますか。

**○廣瀬教育長** 1点目の、全国的にも学力低下傾向にある中で、本市はちょっとその拍車がかかっている現状がある。これについては、これは私の個人的な所感ですけども、先ほど申し上げた授業観の転換とか学力観の転換がなかなかうまく図られていないんじゃないかと。

昔、学調がA問題、B問題とあったときに、A問題はすごく強かったんです。計算処理とかそういったものについては今も強いはず。ちょっと今回は弱かったんですけども、そこはスコアが出る期待ができる。そこからの、例えば算数に限れば、計算処理という、そういうテクニックの問題が主な授業になっているんじゃないか。概念の深い理解といいますけれども、深いまでいかなくても、その考え方がはまっているかどうか。何割引きがスーパーで分かるか。そういう実生活と結びついたり、そういった具体に落とせるような市場にちょ

っと転換がうまく図られていないんじゃないかというのは、私は勝手に思っています。

いろんなところで研修も受けたりするわけですが、ちょっとその温度が、ふつふつとまだ煮え切っていないのかなというところは、私は捉えています。

もし違ったら、また言ってください。

要は、学調の問題に対応できなかったり、問い方を変えられたら面食らったという感じなので、対問題じゃないんですけれども、もともとこのところの耕しをしっかりとしないといけないかなと思っています。

**○川口政策推進部長** プロジェクトの進捗などはどうでしょうか。

**○坂下教育推進課長** 教育推進課坂下です。

このプロジェクトを立ち上げながら、各校の特に校長ですね、管理職の意識を変えていくといえますか、そこに働きかけていくということを今どんどんしているところでして。

やはりこの学調の結果にしても、人ごとじゃなくて、もう一回自分のところの学校の分析をしっかりとしてもらうというようなことを徹底的にやってもらう。そういうふうなことに十分寄与しているんじゃないかと思いますし、それに、こういうふうに教育委員会を横断的に課題をあぶり出すということはなかなか今までなかったんですけれども、あぶり出しながら、それぞれの課で、じゃあ何ができるかということがもう一回明らかになってきたんじゃないかと思いますので、それを受けて、各課でどういうふうなことができるか、どういうふうにして学校あるいは授業の充実が図れるかということを今考えていると。そういう意味では、非常にプロジェクト会議のスタートは大きかったんじゃないかと考えております。

**○川口政策推進部長** 伊藤委員お願いします。

**○伊藤教育委員** このプロジェクトチームですね、かねがねこういうふうな発想っていうのは大事だということは言われながら、なかなかこういうチームを組んでということができなかった。そういう意味では、今の教育課題に対応するという意味では、こういうことがもう必要になってきているということは本当に思いますし、本当に教育委員会挙げて取り組むんだという本気度を示すためにも、これを進めていただいているのは大切なということで、まず、スタートしたばかりだけれども、ぜひこれを進めてほしいなということがあります。

学力について、教育長も言われたんですけれども、四日市がいわゆるB問題とって、いわゆる自分で判断したり考えて活用したりとか、そういうことが大事だということで、そういう力をつけていく学習の一つのモデルとしては、問題解決を中心とした授業を充実させ



ていくことなんだということで、これ、結構前からそこに着目して進められてきたんですね。教育委員会も現場にそういったことをしっかり進めていく。ただ、その形式だけでなく、その過程を経ること、この過程の中で育つ力というものが、今というか、これから生きるこどもたちに必要な力。いわゆる問題解決は当然そうですけれども、情報を得て活用するだとか、そこでコミュニケーションを取るコミュニケーション力だとか、そういったいわゆる言語活用ですね。そういったことも全部含まれているよということを押さえてこういうことを進められてきたんだけれども、現場にそれが本当に落ちているのかというか、理解されて進められているのかという点で、もう一度見直さなければならないところがあるところがあるんです。

結構頑張ってきた。いろいろなものも、資料もつくり、進めてきたんではないのかなと自分は思うんだけど、それが成果につながっていないというところに実は問題がある。ここは本当にしっかり受け止めていかないと、先ほど教育長が言われた95とかいう数値で、あまりそれで右往左往する必要はないとはいえども、ちょっとここ、有意差の感じられるようなものが出てくるというのは、やっぱり有意。何か意味というか、原因があるというふうに真剣に受け止めていかないと。

先ほど菅生委員言われたように、この目標ってどうなのって。ビジョンをつくったときは、全国比102とか103なんです。これが目標なんです。令和8年度目標、来年度の目標。それでいうと、かなりのやはり厳しい状況である。それを本当に受け止めないといけない。

そういう意味で、ただ、基本的にそういう力をつけていく学習のスタイルと同時に、基礎学力が出ていましたけれども、これは必ず相まったものであるということはずっと言ってきたと思うんですけども、学習スタイルの中に基礎的なものもしっかり追いながら、相まって力をこどもたちにつけていくんだと、学力をつけていくんだと。いわゆる確かな学力をつけていくんだということを進めてきたことそのものは決して自分は間違いじゃないと思っているんですけども、やはりどうそれが学校で実現、ちょっとまだしていないのかな。プロジェクトで進めてもらいながら本当に捉えて、そこを自分は全市、全先生で考えてほしいなと。

もう一つは、学校はこんな傾向がある、そこはどうかというのは、学校にもいろいろ特徴があります。学校の特徴を全体で雑駁に考えるのではなくて、一人ひとりのこどもを見てほしい。タブレットとか様々なICT機器が入ってきて、一人ひとりを追っていくとか見詰めるということはより進んだはずなんですね。そういう意味では、個別最適な学びという

のはよりやりやすくなったはずだし、そういう環境も、結構財源を確保してもらって進めてもらっているということをしたら、やっぱりそれをきっちり利用して、一人ひとりにとって今つける力と、そして、それをつけるための学習だとかいったものはどう必要なのかというようなことで追っていかないと。

一人ずつの成長が満足度にもつながり、学力の数値にも表れてくるだろうと思いますので。その丁寧なことをやっていかないと、大体こういう傾向があるから、これをやったりや、100点いけばいいという、そんな感覚ではもちろん進めるとは思わないけれども、一定の緻密さというか、一人ひとりを大事にするなら、そのレベルでの指導というものを土台に進めてもらうことが今また必要なものではないのかなと改めて考えたいし、一生懸命やっているよというのは全然否定しないですけども、ただ、やっぱり結果も一定ありますから。決してそれは数値でどうこうという、それで踊らされるのではなくて、それを確実に進めていくことが数値に表れるし、そのこどもたちの力を成長させていくという意味での基本であらうなというようなことを感じています。

**○川口政策推進部長** ありがとうございます。

教育委員会も含めて、本気でやりますという教育長からの説明もありました。

プロジェクト自体は始まっていく中で、どう結果につなげていくかという部分も問われてくると思いますので、来年度に向けて、その辺のところをしっかりとやっていきたいというところでございます。

**○森市長**

私も、今年度の学力調査の結果が出たときに、教育長に何とかしてほしいという話をしたところです。

私は細かいところまで介入する立場ではないのですが、やはり市長として、全国平均を超える数字を出してほしいというのが率直な意見です。

学力が全てではないですが、大きな要素を占めているのは確かですし、こういう数字で出てくるということは、そういう見方があるわけですから、結果が良いことにこしたことはないと思います。今回、堀委員は発言されていませんけれども、保護者の立場としてはやっぱり学力の高さというのは、一つ大きな期待でもありますから、期待に応えるという意味でも、こういう数字を上げていただきたいと思います。

プロセスは大事で、プロセスがよくないと結果も出てきません。一方、結果が悪いとプロセスが悪いと、そう評価されてしまいますので、そこはしっかりとこのプロジェクトチーム

に対応していただきたいと思います。私も現場には出ていないので分かりませんが、全員が良い点を取れと言っているわけではなくて、今ある自分よりも少しでも良い点を取ろうとみんなが思ったら上がるわけなので、学習意欲の向上であるとか、がんばろうという踏ん張る力、そこを子どもたちに伝えるということが大切だと思います。今より1点でも多く取っていこうという、そういう頑張る心を育む教育をしてほしいというのはあります。

市長を9年やっていますけれども、何年か前はすごくよかった中で、すごく誇らしいときもあったところで、どんどん下がっていくので、市長としてもつらさがあるので。

ぜひプロジェクトチームに様々な分析を行ってもらいながら、結果として、全員が数点ずつ上がるのが良いのですけれども、どのレベルの子どもが全国平均から低いのか、そういうことがわかってくれば、本当に成績の低い子どもにてこ入れするとか、学科・学校別で力を入れるなど方法はあると思います。今までの流れじゃなくて、少しエッジが効いた対応をしても良いのではないかと思います。同じ資源を配分するのであれば、そういうこともプロジェクトチームで検討していただきたいと思います。

学力だけではなくて、たとえば体力も数字として出ますし、やはり、そういう数字として出るものに対しては、ある程度の結果を出してほしいというのが率直な、市長としての意見です。

**○川口政策推進部長** ありがとうございます。

それでは、時間も来てございますので、事項書3につきましてはこの程度とさせていただきます。

#### 4 その他

**○川口政策推進部長** 最後に事項書4、その他ということでございますが、事務局から何かありますか。

(なし)

そのほか、特にないようでしたら、本日の会議はこのあたりで終了とさせていただきたいと思います。

次回は年明け、1月27日の開催を予定しております。また、詳細につきましては後日通知させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、ご議論いただきましてありがとうございます。

ご意見を踏まえて最終案の策定を進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろし

くお願いします。

どうもありがとうございました。